

3 記録を考察してまとめる

保育を振り返る～お砂が出てこないよ～ 3歳児

福岡市立金武幼稚園

<主題> 主体的な遊びの中で「科学する心」を育む保育の在り方～砂・土・水との触れ合いを中心に～
 <きっかけ> 4・5歳児がペットボトルで水をくんでいるのを見て、真似をする姿がある。汲んだ水は地面に流し、汲みに行き、また流し…と繰り返している。容器に水を入れたり出したりすることが楽しいようである。また、5月後半に砂場の砂の量を増やしたことで砂を手で触り感触を楽しんだりごちそう作りをしたりと遊びの中で砂と関わる姿がより多く見られるようになった。この事例は、登園準備が終わり、砂場にきたA児が近くにあった2リットルペットボトルに砂を入れ始めたことがきっかけだった。



<考察> ○環境構成について ☆保育者の援助について

- 幼児が遊びに使えるように大きなタライに水をため、ペットボトルを十分に準備したことで、砂や水の素材でじっくりと遊ぶことができました。ペットボトルを2つ使えたことで、A児が水と砂の素材を比較するきっかけが生まれ違いを感じる事ができました。
 - ☆ 遊びの始めに承認の声かけを行ったことで、子どもの心は安心・安定しじっくりと遊ぶ姿が見られた。
 - ☆ 砂が出てこないA児の不思議を大切にしながら、砂や水に興味をもって遊んでほしいと考え、共感の援助を中心に行った。共感することでA児が感じていた不思議はより深いものになり、没頭して砂に向き合っていた。
 - ☆ 水と砂の違いにA児自身が気付いてほしいという願いから水の出るスピードを指で示し意識が向けられるように声をかけた。“水の速さ”という新たな気付き、水に対する新たな興味に繋がった。
- <学びの姿> ・直前に砂が簡単に出てこなかったことで、水の出方はより速く感じられ、いつも何気なく遊んでいた水に対する新たな気付きや面白さを感じたようだ。
- ・砂と水の出方が比較されたことで、水と砂の質の違いや性質について経験を通して学んでいる。

記録した子どもの姿を基に、右の①～④にあるように、園の主題を踏まえ、園の知りたいことに沿ってまとめ、事例にしています。分析・考察の観点が明らかになっているので、主題に繋がる子どもの体験している内容や変容を把握することが期待できます。また、まとめ方の工夫により、園内で事例の共有が図りやすくなります。